

福島ロータリー・クラブ WEEKLY REPORT



例会日 ■ 2010年9月30日(木) 会場 ■ ホテル[辰巳屋]8F 開会点鐘 ■ 12:30
<http://www.fukushima-rotary.com/> E-mail: f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

Vol.12

第12回会長挨拶

2010～11年度 会長
茂田 士郎



今日は今年度の第12回例会であります。前回の第11回例会は大橋ガバナーの公式訪問でした。ガバナーの理念・方針などお聞きして、ロータリアンとしていろいろ考えさせられる点がありました。

9月28日に東北第一分区の会長幹事会がありました。佐藤信博ガバナー補佐から、大橋ガバナーからのメッセージとして、来月の地区大会には大勢の会員の出席をお願いしたい。時間の関係上、会員の紹介はクラブごとにはしないで、分区分区ごとにまとめてするのでご承知おきたい。会の最後に表彰などが行われるが、途中で席を立たずに最後まで出席して頂きたいとのことでした。ロータリー・クラブについて理解を深める機会でもありますので、私からも多数の会員が参加されるようにお勧めいたします。次に分区分区幹事から今後の分区分区行事予定が述べられました。12月4日に新世代会議が行われ(これは我がクラブがホストを担当します)、平成23年1月4日に市内7クラブ合同の新年例会、2月5日にインターシティミーティング(IM)、3月5日に新会員セミナーが実施される予定だと報告されました。

本日の午前中にマスコミ各社との懇談会がありました。福島クラブの活動の状況等についてご説明をして、またマスコミ各社からのご意見ご要望等を伺い、充実した懇談会でありました。有り難うございました。マスコミ各社の報道部長さんにはこの例会にもご出席頂いておりますが、どうぞ例会を楽しんで頂き、当クラブ会員との個人的な懇談も深めて頂ければ幸いです。

例会プログラムのご案内

- 10月17日(日)…14(木)を変更 9:00～「パルゼいざか」
・RI第2530地区大会
講演「今、ロータリー・ルネッサンスのとき」
RI第2830地区バスターガバナー 関場慶博氏
特別講演「日本のこれから、日本人のこれから」
お茶の水女子大学名誉教授 藤原正彦氏
- 10月30日(土)…28(木)を変更 12:30～「福島競馬場」
・職場訪問例会

今週号の編集長 増子 勉 会員

プログラム

・会員スピーチ「わが社の沿革」

丹治正博 会員

開会点鐘 茂田士郎 会長

ロータリー・ソング
「それでこそロータリー」

ソングリーダー 渡邊又夫 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介

会長挨拶/会長・幹事会報告

幹事報告

各委員会報告

● 広報マルチメディア小委員会 佐々木光政 委員長

● ニコニコBOX小委員会 小林仁一 委員

本日のプログラム

・会員スピーチ「わが社の沿革」No.①

閉会点鐘

茂田士郎 会長



SONG LEADER

茂田士郎 会長

森岡幸江 幹事

お客様ご紹介



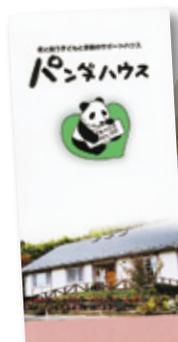
● 福島民報社 報道部長
やすだ しんじ 様
安田 信二 様

● 福島民友新聞社 報道部長
きくち かつひこ 様
菊池 克彦 様

● NHK福島放送局 放送部長
はねだ のぶひろ 様
羽田 巨宏 様

● 福島テレビ 放送部長
ごとう よしのり 様
後藤 義典 様

● テレビユー福島 放送部長
ふじま としろう 様
藤間 寿朗 様



「パンダハウスを育てる会」代表の山本佳子様、菊田洋子様がPR活動の為訪れました。

「パンダハウスを育てる会」事務局

〒960-8157 福島県福島市蓬萊町8丁目15-1

TEL・FAX 024-548-3711

Email pandahouse@oasis.ocn.ne.jp



◆本日のプログラム

会員スピーチ「わが社の沿革」



福島稲荷神社 宮司

丹治 正博 会員

一千年の歴史 陰陽師安倍晴明ゆかりの 福島稲荷神社の由緒

福島稲荷神社(御祭神 豊受比売命、他に大國主命、事代主命)の由緒は、社伝によれば第66代一条天皇の永延元年(987年)、当時朝廷に重用された陰陽道博士従五位下、安倍晴明が詔を奉じて奥羽下向の際、吹島の里(後に福島と改む)にさしかかり、西には吾妻山が空にそびえ、北には信夫山が平原の中より屹然として突出し、南は阿武隈川の清流洋々として東流し、山水の風致、自然の景勝に目を見張るのみならず、地味肥沃にして農耕に適し、将来大いに有望な地相であるとしてここに社を建て、衣食住を司る豊受比売大神(伊勢神宮の外宮の御祭神)を勧請し、此の里の総鎮守としたことに始まります。承安元年晴明の孫清明が社殿を改築、のち天正、慶長年間兵火に会い焼失しましたが、寛永元年板倉重憲が修営、さらに福島十萬石の藩主堀田正仲(元の大老、ゆえあって福島藩へ天封)は元禄2年(1689年)に本殿を、同5年には拝殿を復興造営したことは今に棟札が残されており明らかであります。また元文5年(1740年)板倉勝里が社殿を造営遷座した記録があるなど、江戸時代には福島藩の鎮守とされ、代々の藩主の尊崇を集めてきました。明治28年に県社に列しましたが、その後明治35年の大暴風災害に遇い、倒木により本殿、玉垣が倒壊したのであります。社殿の復興は大正天皇御即位記念事業として始まりましたが、その後さまざまの余曲折を経て、昭和9年に改修事業に着手、昭和13年福島市民の奉賛により現在の社殿が竣功をみました。

福島稲荷神社ご創建の祖 安倍晴明(921~1005)



平安時代、第60代醍醐天皇の延喜年間に生まれ、この間、朱雀、村上、冷泉、円融、花山、第66代一条天皇に仕え、寛弘年間に没す。享年85歳。

今から千年の昔、京の都に安倍晴明という陰陽師がいました。朝廷の陰陽寮に仕えた晴明は、優れた才能により、安倍家を賀茂家と並ぶ陰陽師の家に押し上げました。その伝説は時代と共に広がり、浄瑠璃や歌舞伎、能にも取り上げられてきました。晴明を始めと

する陰陽師たちが携わった陰陽道とは、暦学や天文学の知識を生かして呪いや占い、祭りをする宗教です。中国の陰陽・五行思想を取り入れて、平安時代の日本で成立しました。陰陽道は朝廷や貴族に信奉されただけでなく、鎌倉時代以降は幕府や一般の人々にまで浸透し、明治維新を迎えて禁じられてからは、いろいろな習慣や行事として暮らしの中に伝わってきました。21世紀の今日、人々が陰陽道に再び注目し、清明の伝説に関心を高めている背景には、超人的な力や不可思議なものへのあこがれがあることも見過ごせません。

する陰陽師たちが携わった陰陽道とは、暦学や天文学の知識を生かして呪いや占い、祭りをする宗教です。中国の陰陽・五行思想を取り入れて、平安時代の日本で成立しました。陰陽道は朝廷や貴族に信奉されただけでなく、鎌倉時代以降は幕府や一般の人々にまで浸透し、明治維新を迎えて禁じられてからは、いろいろな習慣や行事として暮らしの中に伝わってきました。21世紀の今日、人々が陰陽道に再び注目し、清明の伝説に関心を高めている背景には、超人的な力や不可思議なものへのあこがれがあることも見過ごせません。

安倍晴明は実在した人物だが、その生涯は謎にまつまれている。

◆歌舞伎「葛の葉」

葛の葉(くずのは)は、伝説上のキツネの名前。葛の葉狐(くずのはぎつね)、信太妻、信田妻(しのだづま)とも。また、葛の葉を主人公とする人形浄瑠璃『蘆屋道満大内鑑(あしやどうまんおおうちかがみ)』、および翻案による同題の歌舞伎も通称「葛の葉」と呼ばれています。

村上天皇の時代、河内国の住人、石川悪右衛門は妻の病気をなおすため、兄の蘆屋道満の占いによって、和泉国和泉郡の信太の森(現在の大阪府和泉市)に行き、野狐の生き肝を得ようとしています。摂津国東生郡の安倍野(現在の大阪府大阪市阿倍野区)に住んでいた安倍保名(伝説上の人物とされる)が信太の森を訪れた際、狩人に追われていた白狐を助けてやるも、その際にけがをします。そこに葛の葉という女性がやってきて、保名を介抱して家まで送りどけました。葛の葉が保名を見舞っているうち、いつしか二人は恋仲となり、結婚して童子丸という子供をもうけます(保名の父郡司は悪右衛門と争って討たれたが、保名は悪右衛門を討った)。童子丸が5歳のとき、葛の葉の正体が保名に助けられた白狐であることが知れてしまい、次の一首を残して、葛の葉は信太の森へと帰っていきました。

恋しくば尋ね来て見よ 和泉なる信太の 森のうらみ葛の葉

この童子丸が、陰陽師として知られる後の安倍晴明です。保名は書き置きから、恩返しのために葛の葉が人間世界に来たことを知り、童子丸とともに信太の森に行き、姿をあらわした葛の葉から水晶の玉と黄金の箱を受け取り、別れました。数年後、童子丸は晴明と改名し、天文道を修め、母親の遺宝の力で天皇の病気を治し、陰陽頭に任ぜられます。しかし、蘆屋道満に讒奏され、占いの力比べをすることになり、結局これを負かして、道満に殺された父の保名を生き返らせ、朝廷に訴えたので、道満は首をはねられ、晴明は天文博士となりました。

葛葉狐は、大阪府和泉市・信太森葛葉稲荷神社(しのだのもりくずのはいなりじんじや)に祀られ、葛葉姫の図は大阪・阿倍王子神社に祀られています。



安倍晴明とその歴史

◆謎に包まれた誕生

安倍晴明の出身地については、大きく分けて3つの説があります。

一、大阪説 二、讃岐説 三、茨城説 この中で最も有力なのは、一、大阪説です。

『葛乃葉(くずのは)伝説』によると、晴明の父は大阪市阿倍野区阿倍野の出身とされています。以下、引用文です。

「いまから千年以上昔、阿倍野に安倍保名(あべのやすな)という男が住んでいました。あるとき、和泉(いずみ)の信田明神(しのだみょうじん)にお参りをすませて帰ろうとした保名の元へ、狩りで追われた白狐が逃げてきて、これをかくまってくれました。その後、白狐は女の人になって、保名のところへ来ます。名前は葛乃葉と名乗りました。ふたりは結婚して阿部神社の近くに住み、やがて子供が生まれ、安倍童子(あべのどうじ・晴明の幼名)と名付けました。」

狐は古来から、霊力を持った動物として崇められており、白狐であった母親を持つ晴明は、天才陰陽師として君臨することになるのです。晴明が阿倍野の出身というのは、安倍晴明神社の記録としても残っています。安倍晴明神社に伝わる『安倍晴明宮御社伝書』には、安倍晴明が亡くなったことを惜しんだ上皇が、生誕の地に晴明を祭らせることを晴明の子孫に命じ、亡くなって二年後の寛弘四年(1007年)に完成したのが、安倍晴明神社であると記載されています。

賀茂忠行、晴明の才能に惚れ込む

安倍晴明の少年時代も、出生と同じく謎に包まれていますが、

- * 人に見えない鬼を見たことがある
- * 鳥が話す言葉が分かった
- * 龍宮城に行ったことがある

などの言い伝えがあります。また、『今昔物語集』では、こんな記録が残っています。

「陰陽師の賀茂忠行のお供で出かけたとき、晴明は恐ろしい鬼たちが自分達に向かってやってくるのに気付きました。晴明は、牛車(ぎっしゃ)のなかで眠っていた忠行を起こし、術を使って隠れ、命を取り留めることができました…」

その後、忠行は晴明の才能に惚れ込み、陰陽道の奥義のすべてを教え込んだといえます。

陰陽師とは、いかなる存在か？

平安時代の天才陰陽師として名高い、安倍晴明。一体「陰陽師」とは、いかなる存在なのでしょう？

陰陽師には、二面性があるとされます。

一つは中国伝来の陰陽五行説(いんようごぎょうせつ)によって天体を観測したり暦を作成する科学者の側面。そしてもう一つは式盤を使って吉凶を占ったり、自在に式神

(陰陽師の意のままに動く鬼神)を自由に操る呪術師的な側面です。

一条戻橋

「あの世」と「この世」をつなぐとされた、一条戻橋。京都・一条通りを横切って流れる、堀川の上にかかるこの橋。伝説では、晴明の父の保名が蘆屋道満(あしやどうまん)に殺害された場所であり、晴明が呪法を駆使して保名を蘇生させた場所でもあります。晴明は二人の式神(しきがみ)を、この橋の下に隠していたとされます。

今的一条戻橋は新築されたものですが、昔の欄干は道路を隔ててすぐのところに位置する、晴明神社(晴明住居跡に建立)に保存されています。

晴明墓所…京都嵐山

大阪市阿倍野区阿倍野で産まれたとされる晴明。活躍期には、住居を京の都の北東(京都市上京区・現晴明神社)に構え、晴明は都に侵入する鬼を防ぐ役割を果たしていました。そして、花山天皇、藤原道長を始めとする貴族に重く用いられ、寛弘2年9月26日(1005年)、85歳でこの世を去ったとされています。

現在、晴明の墓は、京都市嵯峨にある「晴明墓所」が有名です。渡月橋(とげつきょう)のそば、細い路地裏に位置するこの墓所は立派な鳥居で囲われ、没後970年記念の石碑が真ん中に、そしてその奥に晴明の墓が位置し、華やかにし平安京での晴明の姿が忍ばれます。

◆福島における晴明伝説

福島稲荷神社 石森神社 清明町
(晴明塚 羽黒山真浄院の境内)

「晴明塚と道満塚」

「昔、神亀年間(724~729)に笹木野村に大きな杉の木があった。田畑が日影になるので、役所に訴えてこれを切り倒した。ところが大杉の精(魂)が朝廷に祟りをして、天皇は病気になった。朝廷は安倍晴明と蘆屋道満(あしやのどうまん)の二人を東奥(福島)によこして、天皇の病気が治るように祈らせた。二人は祟りをなだめ、杉の精を神として祀った。これが杉妻大明神であると村人は言っている」

晴明塚は安倍晴明の功を称え、労を謝してまつた塚といわれ、広い境内を持っていた羽黒山真浄院(清明町)の境内にあったと伝えられていますが、現在は確認できません。道満塚は蘆屋道満が祈禱した祭壇といわれ、太田町ガード西南付近にあったといわれ、道満塚の跡には愛宕神社が祀られていましたが、新幹線の建設により移転しました。

小林 仁一 委員



[茂田 士郎 会長]

マスコミとの懇談会で市内マスコミの各報道部長、放送部長さんから、いろいろ有益なご意見を頂きありがとうございます。

[森岡 幸江 幹事]

マスコミの皆様から貴重なご意見を頂きありがとうございます。丹治会員のスピーチ楽しみにしております。

[佐々木光政 会員]

本日は福島市のマスコミ5社の現場の責任者にお集まり頂いて年1回恒例のマスコミ懇談会を実施致しました。私共からの様々な説明の後、各社さんから積極的な意見提言が出され大変有意義な会となりました。詳細はクラブ会報にてご報告致します。マスコミ各社の皆様どうもありがとうございました。

[丹治 正博 会員]

今年の福島稲荷神社の例大祭は10月9日より11日ま

での3日間とりおこなわれます。福島のベストシーズンに行われる県都福島市最大のお祭りにどうぞご参拝下さい。

[脇屋 隆治 会員]

終戦当時ソ連軍によりシベリヤに強制連行され間もなく行方不明となった兄の慰霊のため、今年も去る18日、靖国神社に於ける永代神楽祭に参列して参りました。今年は家内の他息子2人、嫁、孫娘 計5名が同行してくれました。

[中村 忠司 会員]

丹治会員のお話が楽しみです。「わが社」というので丹治さんはどこの会社の社長?だったかなとしばらく考えました。

豊田 猛夫/渡邊 又夫/梅宮 勇造/加藤 眞司/
 時任 淳信/渡辺 恭介/幡 研一/佐藤 英典/
 三宅 喬/海野 卓哉/安藤健次郎/松井 敏彦/
 佐久間 洋/右近 八郎/澁谷 直樹

広報マルチメディア小委員会報告

広報マルチメディア小委員会

佐々木光政 会員



マスコミ懇談会報告

同会は2002年、河田会長年次から毎年継続的に開催してきており、今年も昨年に引き続き、在福島市の新聞2社・放送局3社のマスコミの、現場責任者5人の各社部長職の方にご足労頂いた。まず、私どもからロータリーの現況や今年度活動計画などを説明し、さらに

来年3月に迎える福島ロータリー60周年記念のイベント等への取り組みについても披露した。市内の学校を対象に環境を守る活動への顕彰を行う記念事業については、各社から質問が相次ぎ、関心の高さを窺わせた。

今回の懇談会ではマスコミ側から2巡に渡って、真摯で忌憚のない発言があり、きわめて有益な助言を得ることができた。来年以降も継続的にこのマスコミ懇談会は開催していきたいと考えている。



私のひと言

「きょうは何の日？」

河田 亨 会員



民間テレビ・朝番組の冒頭で『きょうは何の日?』が紹介されます。また、福島民報の「みんなのひろば」欄には『きょうの歴史』が載ります。懐古主義者ではありませんが、私の毎日は、その“確認”からスタートです。

数字や語呂合わせで、決まったケースもありますが、うなずいたり、再発見したり、楽しい勉強のひと時です。例えば9月9日は「救急の日」そして、9月10日は「カラーテレビ放送記念日」でした。1980年(昭和35年)のこの日、NHKと民報4局がカラーの本放送を始めました。世界ではアメリカ、キューバに次いで3番目だったとのこと。

また、数字合わせで7月10日は「納豆の日」、7月28日は「菜っ葉の日」、8月10日は「帽子の日」、8月19日は「俳句の日」、9月2日は「靴の日」…。

ちなみに私たちの「ロータリーの日」は2月23日。1905年のこの日、アメリカ・シカゴに初のクラブが誕生しました。

幹事報告

森岡 幸江 幹事



その他のお知らせ

- 農林中央金庫福島支店長 甲賀 豊会員よりチューリップの球根を頂きました。
- 10月2日(土)、地区米山記念奨学会セミナーが郡山にて開催され、茂田会長、古俣国際奉仕小委員長が出席されます。尚、同日米山奨学生カウンセラーセミナーも開催され、白岩会員が出席されます。
- 10月3日(日)、地区社会奉仕委員会事業「猪苗代湖畔美化ボランティア、勉強会、シンポジウム」が開催され当クラブより、氏川社会奉仕小委員長、内田委員が参加されます。同じく10月9日(土)は、ロータリー猪苗代湖水環境協議会主催の水草回収作業に茂田会長、森岡幹事、氏川社会奉仕小委員長が参加されます。
- 小型会員名簿を配布しましたのでご利用下さい。